

ビート

a2200801 青木 しず江

..... 《 背景と目的 》

卒業制作とは、この2年間の集大成である。
2年間で身につけたものを注ぎ込んで取り組むこの制作のテーマを考えた時、私は2年間の中で自分にとって最も印象深かったこと、大切に感じたものを表現したいと思った。

短大での生活を送る自分にとって最も大切だったものは、「音楽」である。
楽しい時、辛い時、また普段の作業中や難しい課題に取り組む時も、音楽は常に私のすぐそばにあり、心の支えとしてなくてはならない大切なものだった。私は音楽からパワーをもらい、生きるためのエネルギーを得ていたのだと思う。

では、音楽の持つパワーとはどのようなものなのかを考えてみると、それは音楽の中の「リズム」もしくは「ビート (= 鼓動)」に関係があるのではないかと私は思った。音楽の中のビートが身体の中に響くことで、それがまるで血を巡らせて身体を生かしている心臓の鼓動のように力を湧き上がらせるのではないだろうか。

このかけがえのない2年間において最も大切だった「音楽」という存在を表現すると同時に、器物とは違う漆の表現方法を探りたいという気持ちから、作品の形は鼓動をダイレクトに伝える「心臓」に決定した。

..... 《 デザインコンセプト 》

一目見たときに鼓動の音がイメージできるようにしたいと考えたため、心臓模型を型取りして最もリアルな心臓の形、大きさにした。また自分にとって、耳にすることでエネルギーが湧いてくるような気持ちになるのが16ビートであるため16個の心臓を制作する。
各々に種類の違う漆の技法 (加飾技法) を施し、またその16個を並べることで視覚的にもリズム感をもたせる。

【使用素材】

- ・石膏・漆

【技法】

- ・変わり塗・蒔絵・螺鈿・卵殻など

【サイズ】

- ・縦12×横8×幅8 (cm)

..... 《 制作工程 》

1. スケッチ / エスキース...技法、装飾決定。
2. 原型の型取り...シリコンゴムで原型の型を取り、出来上がった型に石膏を流し込み、石膏の心臓を制作する。
3. 固め...漆と石油を混ぜたものを石膏に塗り、しみ込ませる。
4. 8つずつに分け、一方はそのまま血管を浮き立たせた状態にし、もう一方は下地を付けて平面を出し、各々表現を変える。

【固めのみ的心臓】...へこみを修復し、すぐに塗りに入る
黒塗り...黒を3～4回塗る。
赤塗り...赤を3～4回塗る。
溜塗り...赤を3回、木地呂 (薄茶色の漆) を1回塗る。
木地呂塗り...木地呂を3回塗る。
赤黒ぼかし塗り...黒を3回塗り、赤と黒を上下半分ずつ塗り、間をぼかしてグラデーションにする。
青黒ぼかし塗り...黒を3回塗り、青と黒を上下半分ずつ塗り、間をぼかしてグラデーションにする。
根来...黒を2回、洗朱 (明るい朱色) を2回塗る。
洗朱を研ぎ、所々に黒の地をのぞかせる。
金箔...黒を3回塗り、全体に金箔を貼る。

【下地を付けた心臓】...平面を出すため下地を2～3回付ける
平極蒔絵...漆で文様を描き、真綿で紛を蒔く。摺り漆をする。
螺鈿...血管の模様に沿って細かい螺鈿を蒔絵同様に蒔き、漆を塗って研ぎ出す。
卵殻...卵の殻を貼り付け、漆を塗って研ぎ出す。
漆絵...赤と青の漆を使い、動脈と静脈の絵を描く。
蒔地...ロイロ漆 (黒い漆) を塗ってすぐ炭粉を蒔いて定着させざらついた表面を出して固めをする。
金虫喰...ロイロ漆を塗るもみがらを蒔き、粒々のまだら模様を付けて色漆を塗り重ね、研ぐ。
布着せ...麻布を漆で張りつけ、布地をそのまま出す。
木地...白漆を塗り、研石で黒いすじを出し、木地呂を塗る。
木のように見えるようにする。

原型を粘土で固定、
シリコンゴムを流し込んで型取り



シリコンの型 (後方) に石膏を流し込み
原型が完成 (右)



固めのみ的心臓 (左列) と
下地付けの心臓 (右列)



下地を付けている様子



塗り後の風呂の中



固めのみ的心臓は
血管が見えるように



多様な塗り



下地を付けた心臓はツルリとした表面



..... 《 考察・感想 》

まず、固めのみ的心臓の制作については、何日も塗りが乾かずオープンで焼き付けるなどをして乾かしていたが、研ぐにつれて石膏ごと塗りがはがれてしまい、修復するのに時間がかかってしまった。2回目以降の塗りで強く研ぐと石膏がのぞいてしまうことがあったので、1つにつき1時間以上かけてやさしくゆっくり研がなければならなかった。

そして下地を付けた心臓は、へこみやみぞを埋めて平面を出すのに日数がかかったが、塗ると思いのほかツルリとした面が出てとても嬉しかった。また、螺鈿や金虫喰など、今までに試したことのない技法にチャレンジする事ができた。特に金虫喰に関しては、心臓の曲面のせいともみながらなかなか張り付かず、何度もやり直して大変苦労したが、とても新鮮だったように思う。また、16種類もの多様な塗り、技法を探っていくにつれ、簡単そうに見えたものが存外難しく、改めて伝統の技術のレベルの高さを思い知らされた。そして今だから思う事だが、クラフトという分野は「自分の手でものをつくる」ことが大切になってくるので、やはり原型は手作りにした方が良かったのではないかと思うことがあった。私はクラフトゼミに入って自分の手で形をつくることの楽しさや喜びを知ったので、どこか物足りなさが残るのは否めなかった。しかし、この作品を展示し、作品自体やその空間を自分以外の誰かに見せることで、器物以外の漆の在り方、多様な漆の表情を広く伝えられるのではないかと思う。自分自身がこの2年間で漆の新たな可能性を知る事ができたように、まだまだ社会にその表現の多様性を広めることが出来るのではないかと思った。